

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2021 年度・第 2 回

2021 年 12 月 15 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価する。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2021年度 第2回学校関係者評価委員会

2020年度における各学科の各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。尚、2020年度の重点項目とその進捗状況は次の通りである。

- ・日 時：2021年11月26日（金）17：00～18：30
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 305・306 教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【出席委員と学校側関係者】

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部 俊一：OB・理工専校友会会長
- ・池上 清美：保護者・放送映像学科2年生
- ・杉田 明治：地域住民・文京区礪川地区町会連合会 会長
- ・羽場 宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛 信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤 大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭 尚子：企業等・介護福祉学科

【学校側委員（オブザーバ参加含む）】

- ・松井 敏宏：理事長
- ・吉山 隆晴：法人本部長兼事務局長
- ・渡邊 敏章：校長
- ・水落 清治：校長補佐兼放送映像学科長
- ・小川 貴之：建築系学科長
- ・秋田谷徳靖：電気電子学科長
- ・沢田 雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科長
- ・小野 恭子：留学生相談室副室長
- ・黒須 永喜：総務室長

4. 議事

1. 出席者紹介 渡邊 校長
2. 挨拶 松井 理事長
3. 2020年度自己点検報告書について
4. 取組み事項の報告
 - ① 今年度の重点項目について
 - ・新型コロナウイルス感染症の予防対策と教育運営について

・教育活動（各学科より除籍退学率・就職動向）

② 学生・教職員の安全確保

③ その他

5. 質疑

6. 評価委員から意見・講評

7. 事務連絡他

5. 配布参考資料等

資料 1 新型コロナウイルス感染症出席停止後の公欠扱いに関する特例

資料 2 緊急事態が延長された期間の授業運営について

資料 3 抗原簡易キットを用いた検査の実施について

資料 4 緊急事態宣言解除後の当面の授業運営について

資料 5 在校生の新型コロナウイルス感染症の感染防止に関するアンケート

資料 6 東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング検査の実施協力者募集

資料 7 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の決定等について

資料 8 2021 年度前期除籍退学

資料 9 2021 年度就職状況

資料 10 2022 年度行事予定表

6. 報告事項

【今年度の重点項目確認】

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を確実にしながら、専門学校としての実践的な技術を身に付ける。学生の教育と人間力を併せて確実に教授できるように、感染予防策に努め、学生・教職員の安全を確保しながら、教育の質を落とさぬ教育運営を行う。

リモート授業等によるコミュニケーション不足による退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を 10%以下とする。

以上の 2 点に重点を置き、教育運営をしている

【学生・教職員の安全確保】

新型コロナウイルス感染症の予防対策に重点を置いた教育運営を次のように行った。

新型コロナウイルス感染症に罹患した学生の法定出席停止 10 日間としてきましたが、完治に時間が掛かるために 11 日を公欠として扱うことにした。(資料 1)

7 月 12 日に発出された緊急事態宣伝の延長に際し、その都度授業運営のガイドラインの見直しを図り、感染予防に力を入れることにした。(資料 2)

その間、校内クラスターを未然に防ぐ目的に「抗原検査キット」が、厚生労働省より届いた。この検査実施は、未成年の在校生場合に保護者同意が必要となり、対象学生の保護者全員に郵送にて保護者の同意を求めた（未同意 1 名）が、本日までに検査については実施していない。(資料 3)

ようやく、緊急事態宣言は解除されることになり、対面授業についても条件付きではあるが認めることとした。そのため、密になる恐れのある実習等についてはマスク+フェースシールドの着用を条件に認めるため、学生・教員全員にフェースシールドを配布することにした。(資料 4)

ワクチン接種に関しては、東京都大規模接種、学校と同一のビルで行われた三菱食品職域接種、大手町読売新聞社職場接種を多くの学生が受けることが出来た。

現在、東京都では新型コロナウイルス感染症モニタリング検査を実施しており、本校も協力体制をとっている。(資料 5)

文部科学省からの今後の新型コロナウイルス感染症について「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の決定等について」にもある通り「生徒の学修機会の確保と、新型コロナウイルス感染症への対策の徹底の両立」となっていますので、学校も引き続き感染予防対策を実施していきます。(資料 6)

【教育活動（各学科より除籍退学率・就職動向）】

資料 7 と資料 8 を参照

6. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝（不十分である）

● 感染対策の評価（4.75）

- ・ 出来る限りの対策は実施していると思う、続けて欲しい。
- ・ 独自の教育運営ガイドラインを詳しく設け運営している。
- ・ コロナ禍の中、やるべき安全対策は行っている。
- ・ 常に新しい情報を取り入れた中での感染対策やガイドラインの更新などはとてもすばらしく、学校という密になりやすい環境下でもクラスターが出なかったのはその賜物であると思う。これからもこの対策を維持継続して欲しい。
- ・ 感染対策は学生指導、感染防御策など学校全体で取り組んでいる。
- ・ これ以上は無いくらいの対策を行っている。
- ・ 不織布マスクの着用させるための対策や対面授業後の消毒作業など感染対策は考えられている。

● 感染予防からの授業運営の評価（4.75）

- ・ 抗原簡易キットを使うことが無いのは良い状態と思う。少しずつ対面授業を増やすことを検討すべき。
- ・ 独自の教育運営ガイドラインを詳しく設け運営している。
- ・ ワクチン接種が進み、これからの学生との対面授業などを多く取り入れ、学生とのコミュニケーションをとることにより、教育にもつながると思う。
- ・ 全員分のフェイスシールドの準備や分割実習や授業など、国や都からの指示以上に学校での対策を工夫しているのはとても素晴らしいと思う。対面授業を増やす中でも、この対策を維持継続して頂きたい。
- ・ 対面授業とオンラインとのバランスをとり効率よく授業を行っている。
- ・ これ以上は無いくらいの対策をされていると考えます。
- ・ オンライン授業や教室の消毒など努力されていると感じます。

● 除籍退学率 10%以下目標の評価（4.00）

- ・ コミュニケーションはコロナ禍で頑張っているとっていると思う。精神的な疾患が多い。入学時の意識の確認が必要
- ・ 毎年課題になっている事。強化に努めてもらいたい。
- ・ 除籍退学に関し、仕方ない理由を除いては学力不足や精神的なところが主であると思う。コロナ化で対面授業が多くできなかった事、またそのせいで学生も先生や同級生とコミュニケーションが取れなかったのも大きな要因であ

り、これから対面を増やしていく中で、学生の学力はもちろん、面談等の積極的な実施が大事である。

- ・ コロナの影響で留学生の生徒数が減り若干退学率も減少。主な課題として退学率減少に学校全体で取り組んでいる。具体的アクションプランが必要。
- ・ 学校が実施されたアンケートによると、授業開始時間の繰下げがまだ交通機関の混雑と重なり密の解消にはなっていないとの声が多いので、感染拡大時は考える必要がある。
- ・ 努力は評価する。

● 就職対策の評価 (4.00)

- ・ 学生の動きが鈍い、親もまき込みに三者で就職指導をする等の活発化。
- ・ 各学科間で全教職員の方々に情報共有をして欲しい。
- ・ 全体的に前年度よりやや高い点は評価できる。臨床工学に関しては、今年度は少し動きが遅い傾向ではあるが、11月初め当りから急に活発になって来ているため、すぐにでも学生を動かしてもらいたい。
- ・ 各企業とのタイアップ協力でオンライン就職案内を行ってはどうか。早期のPRが必要。コロナの為、インターシップも当分の間難しい状況です。
- ・ 就職希望の生徒たちへの対応は問題ない。

● 学生支援の評価 (4.13)

- ・ 留学生に対する日本語の教育は、しっかり実施している。
- ・ 適切と判断している。
- ・ 学生の感染対策、学力向上、精神的支援、就職支援といろいろあるが、まずはコロナ化でなかなか出来ていない。今は一番大事な支援として学生とのコミュニケーションをとり、学生の状態を把握すること。
- ・ 留学生相談室の活動に期待する。
- ・ 学生相互の交流を深めるためのクラブ活動（映画、ゲーム、カメラなど）を生かし構内に展示（写真他）しコミュニティを活性化する。
- ・ 年々、支援状況は良くなっている。

● 2022年度に向けての対応の評価 (4.38)

- ・ 実践教育として必要な現場授業について感染状況などを考慮しながら少しずつ増やしてもらいたい。
- ・ 学科ごとに対応は異なるが、研究発表や地域交流も予定しているとの事、積極的に働きかけてもらいたい。
- ・ 来年度も感染対策を行いながら、学校行事は積極的に実施してもらいたい。行事は学生のつながりやモチベーション維持には大事なものであり、これにより除籍退学者を少しでも減らすことが出来ればよい。
- ・ コロナの影響が継続する中、企業も従来のコロナ対策を継続している。特に学生のインターシップが実施できないことは、就職活動に支障をきたしている。企業側との協力でオンラインによる就職案内、会社案内などのインフラ整備が必要。
- ・ 優れている。
- ・ 読売グループのメリットをもう少し生かし、募集や全国の高校への売り込みなど、学校の魅力を最大限に発揮して募集されたい。

- ・ コロナの収束がまだはっきりしておらず、計画通りに進んでいくか難しいと思うが、努力されたい。

● **学校運営に関する全体評価（4.38）**

- ・ コロナ禍、しっかり対策を続けてもらいたい。
- ・ 細部まで気を配って運営している。
- ・ コロナ対策、留学生対策、退学率の減少など推進し効果を発揮している。新キャンパスの特性を生かし地域との密着度を深めて欲しい。
- ・ 新設備を活用した事業にも取り組み推進して欲しい。
- ・ コロナ禍の中で最大の努力している。
- ・ コロナの感染状況に応じた授業形態を手探りで探しながらも実施できている。
- ・ やはりコロナの影響で留学生の入学が遅れていることが不安に感じます。

7. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上